

1. 略歴

1991年3月	宮城教育大学教育学部小学校教員養成課程卒業
1994年4月	東北大学大学院国際文化研究科国際交流論専攻博士課程前期入学
1996年3月	同 修了、修士(国際文化)
2002年9月	宇都宮大学留学生センター講師(～2007年10月)
2006年10月	東京工業大学大学院社会理工学研究科人間行動システム専攻博士後期課程入学
2007年11月	宇都宮大学留学生センター准教授(～2012年3月)
2008年4月	同 宇都宮大学大学院国際学研究科准教授(～2019年3月)
2010年3月	東京工業大学大学院社会理工学研究科人間行動システム専攻博士後期課程修了、博士(学術)
2012年4月	宇都宮大学留学生・国際交流センター准教授(組織名変更)(～2017年3月)
2017年4月	同 学術院准教授(国際学部・国際学研究科責任教員、改組)(～2020年8月)
2019年4月	同 大学院地域創成科学研究科准教授(改組)(～2020年8月)
2020年9月	東京大学大学院人文社会系研究科准教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

日本語教育学

b 研究課題

- (1) 日本語ライティング教育のための教授法開発とその基礎研究
- (2) 日本語教員の養成・研修のための教授法開発とその基礎研究
- (3) 外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修のための教授法開発とその基礎研究

c 概要と自己評価

研究課題(1)及び研究課題(2)に関しては、科学研究費補助金基盤研究(B)「日本語教師養成・研修におけるライティング教育実践能力の育成—批判的思考を中心に—」を研究代表者として開始した。2020～2021年度は、①日本語教員養成課程の大学4年生を対象にしたインタビュー調査、②日本語教員養成課程の大学生を対象にした質問紙調査、③現職の日本語教員を対象にした質問紙調査を実施し、定量的・定性的に分析した結果からライティング指導の難しさの特徴の解明を試みた。加えて、代表理事を務める大学日本語教員養成課程研究協議会が2021年に30周年を迎えたのを機に、大学・大学院における日本語教員養成の教育・研究を概説した書籍刊行を企画し、編集統括及び執筆を行った。この著書は、2022年12月刊行の予定である。

研究課題(3)に関しては、以下の二つの研究成果を発表した。一つは、公益社団法人日本語教育学会が文部科学省から受託した「外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修モデルプログラム開発事業」の研究の一部として、教育方法に関する課題と今後の可能性について熟達化の観点から考察した。もう一つは、外国人児童生徒の教科学習支援のための基礎研究として、中学校社会科教科書に使用されている抽象語を分析し、その特徴を捉えた。

以上の通り、当初の研究計画を概ね遂行することができた。今後も着実に展開していけるよう鋭意努めていきたい。

d 主要業績

(1) 著書

共著、石黒圭・鳥日哲 編、井伊菜穂子・鎌田美千子・胡芸(芸)群・胡方方・田佳月・黄均鈞・布施悠子・村岡貴子 著、『どうすれば論文・レポートが書けるようになるか—学習者から学ぶピア・レスポンス授業の科学—』、ココ出版、2020.2

(2) 論文

鎌田美千子、「パラフレーズに着目した日本語指導書開発のための一考察—質問紙調査から見えてきた課題—」、『宇都宮大学国際学部研究論集』、49、51-59頁、2020.2

鎌田美千子・板垣信哉、「第二言語としての日本語による視写と黙読の効果—レポート・論文表現の学習に向けた実証研究—」、『宇都宮大学国際学部研究論集』、49、41-49頁、2020.2

鎌田美千子、「日本語教授法開発と教師養成—ライティングにおける書きことばの習得と学習を例に一—」、『文化交流研究』、35、87-95頁、2022.3

坪根由香里・鎌田美千子、「大学の日本語教員養成課程で学ぶ大学生がライティング指導に感じる難しさ —PAC 分析の結果をもとに—」、『大阪観光大学研究論集』、22、33-42 頁、2022.3

(3) 学会発表

国内、金田智子・菅原雅枝・仲本康一郎・鎌田美千子、パネルセッション「教師教育の課題と可能性—外国人児童生徒等教育を担う教員の養成と研修に焦点を当てて—」、2020 年度日本語教育学会春季大会、2020.5.30

国内、清水友美・鎌田美千子、「中学校社会科教科書における抽象語の分析と授業実践の試み—日本語指導が必要な子どもたちへの学習支援に向けて—」、2020 年度日本語教育学会春季大会、2020.5.31

国内、坪根由香里・鎌田美千子、「大学の日本語教員養成課程で学ぶ大学生が持つライティング指導に対する意識—難しさに焦点を当てて—」、第 30 回小出記念日本語教育研究会、2021.6.27

国内、鎌田美千子・坪根由香里・副田恵理子・脇田里子・村岡貴子・菅谷奈津恵・松岡洋子、「大学で日本語を教える教師が抱えるライティング指導の難しさ—日本語教師養成・研修の具体的検討に向けて—」、2021 年度日本語教育学会秋季大会、2021.11.28

国内、脇田里子・鎌田美千子、「ドイツのアビトゥア試験ドイツ語科目の問題分析—日本語のアカデミック・ライティングへの示唆—」、第 55 回 AJG 定例研究会、2022.2.20

(4) 予稿・会議録

国内会議、金田智子・菅原雅枝・仲本康一郎・鎌田美千子、パネルセッション「教師教育の課題と可能性—外国人児童生徒等教育を担う教員の養成と研修に焦点を当てて—」、『2020 年度日本語教育学会春季大会予稿集』、38-47 頁、2020.5

国内会議、清水友美・鎌田美千子、「中学校社会科教科書における抽象語の分析と授業実践の試み—日本語指導が必要な子どもたちへの学習支援に向けて—」、『2020 年度日本語教育学会春季大会予稿集』、238-243 頁、2020.5

国内会議、坪根由香里・鎌田美千子、「大学の日本語教員養成課程で学ぶ大学生が持つライティング指導に対する意識—難しさに焦点を当てて—」、『第 30 回小出記念日本語教育研究会予稿集』、61-64 頁、2021.6
同『小出記念日本語教育研究会論文集』30、185 頁、2022.3

国内会議、鎌田美千子・坪根由香里・副田恵理子・脇田里子・菅谷奈津恵・松岡洋子、「大学で日本語を教える教師が抱えるライティング指導の難しさ—日本語教師養成・研修の具体的検討に向けて—」、『2021 年度日本語教育学会秋季大会予稿集』、81-86 頁、2021.11

国内会議、脇田里子・鎌田美千子、「ドイツのアビトゥア試験ドイツ語科目の問題分析—日本語のアカデミック・ライティングへの示唆—」、『第 55 回 AJG 定例研究会会員発表予稿集』、1 頁、2022.2

(5) 会議主催 (チェア他)

国内、2020 年大養協シンポジウム「社会の変化に対応した持続可能な日本語教員養成課程に求められるもの」、主催、オンライン開催、2021.3.20

国内、2021 年大養協シンポジウム「大学日本語教員養成における教育実習の新たな課題—学習場面の多様化・求められる教師像の変化・コロナ禍に揺れる社会の中で—」、主催、オンライン開催、2021.6.5

国内、大養協 30 周年記念シンポジウム「社会を築くことばの教育—日本語教員養成のこれまでの 30 年、これからの 30 年—」、主催、オンライン開催、2021.10.17

(6) 資料

『中国語を母語とする児童を対象としたリライトのための日中漢語対応表』、鎌田美千子・劉琮、2020

(7) 研究テーマ

文部科学省科学研究費補助金、基盤研究 B、鎌田美千子、研究代表者、「日本語教師養成・研修におけるライティング教育実践能力の育成—批判的思考を中心に—」、2020～

文部科学省科学研究費補助金、基盤研究 B、鎌田美千子、研究分担者、「日本語読解・ライティングの方法に影響する母語・母文化の教育的背景要因に関する研究」、2019～

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

非常勤講師、宇都宮大学大学院、「言語教育特論」、2021.4～

非常勤講師、宇都宮大学、「言語・コミュニケーション研究 E (日本語教育特別演習)」、2021.10～
セミナー、公益財団法人栃木県国際交流協会、「日本語学習支援研修会」、2020.10～2020.11

(2) 学会

国内、公益社団法人日本語教育学会、審査・運営協力員、2016.7～

国内、専門日本語教育学会、編集幹事、2020.4～

国内、大学日本語教員養成課程研究協議会、代表理事、2020.11～

国内、異文化間教育学会、一般会員、2004～

国内、社会言語科学会、一般会員、2013～

(3) 行政

文部科学省、法務省告示をもって、日本語教育機関を定める際の設備・編制を調整する委員会、委員、2017.12～2021.3

宇都宮市、芳賀・宇都宮市 LRT 停留場名称検討委員会、委員、2019.11～2021.3

公益財団法人栃木県国際交流協会、講師、2020.10～2020.11

(4) 学外組織（学協会、省庁を除く）委員・役員

教育機関、一橋大学、学位（課程博士）請求論文審査員、2020.7～2020.10